

東北：八幡平～岩手山

- ◆日程 2019年7月27日(土)～28日(日)
◆メンバー L：大山

夏休みの日本百名山をめぐる山行として、今年は東北の山に登りたいと考えていた。青森や岩手辺りで検討していると、「裏岩手縦走路」の情報が目についた。50kmのロングトレイルも可能なようだが、今回は八幡平から岩手山の縦走と決めた。

7月27日(土) 天候：曇り時々雨の後晴れ

26日夜から夜行バスにて盛岡駅に向かった。台風の接近により横浜も夜から雨が降り始めていたが、東北北部には影響が少ないとの判断で決行した。27日朝6時頃盛岡駅に到着すると、曇り空であった。駅の待合室で朝食をとりながら計画を再確認する。その後、東口バスターミナルに向かい9:10発の八幡平自然散策バスで八幡平山頂BSへ向かう。比較的軽装備の登山者が多く、八幡平観光と思われる方々など、数十名が乗車した。途中、近くのご婦人と話していると、前日に三ツ石山へ行かれたというので三ツ石山荘の水場の状況を聞く。「とてもおいしい水が出ていた」と言われ一安心した。

予定通り10:55山頂BSに着くと、残念なことに濃いガスに覆われていた。さらに悪いことに雨も時折降ってくる。仕方なく雨の装備をし、八幡平山頂へ向かう。八幡平山頂は遊歩道が整備されており、スニーカーでも歩きやすい石畳のトレッキングコースとなっている。時間的な余裕がないので八幡沼をパスして山頂のみの周回コースで再び山頂BSへ戻る。

昼食後、山頂BSから車道を少し下り裏岩手連峰登山口へ向かう。道路脇に広いスペースと登山道の案内板があるので、すぐに登山口とわかる。登山道は草なども刈られていて明瞭だが、粘土質の登山道は濡れていると非常に滑る。さらに、数十センチから五十センチ程度幅の深い溝状になっていて、その中に石が転がっているため非常に歩きにくい。しかし、基本的には下り方向の縦走のため、タイムは稼ぐことができる。この裏岩手縦走路は岩手山に向かって進むため、一般的に岩手山を望めるコースのはずだが、いまだ濃いガスに覆われ岩手山の姿は拝めない。また、複数のピークを越えて行くが、標高差は少ないので、体力的にも余裕がある。

15時過ぎに大深山荘に到着する。登山道の草刈りをしていた方々が外で休憩されていたので話を聞くと、三ツ石山荘の水場は雨量に影響されるらしく、すぐに涸れるとのことであった。山と高原地図にも「秋は涸れることがある」と書かれていたので、大深山荘の水場で2Lほど汲んでいくことにした。この後しばらく岩手山方面の視界がなくなるが、数ピークを越え三ツ石山山頂ではガスが晴れ、岩手山の全容を拝むことができた。そして、この山を下り宿泊地である三ツ石山荘に到着した。とても綺麗な避難小屋で、二階建ての数十名は宿泊できそうな小屋で、屋内にトイレも設置されている。18時過ぎの到着であるが先客はいない。日没が近いので早々に水場を確認すると湧いているので、翌日分も含めて汲んで帰る。ランタンの明かりのもと夕食を摂り、21時前に就寝した。



(記：大山)

CT：八幡平山頂BS10:55 - 八幡平山頂 11:38 - 八幡平山頂BS12:05/12:30 - 裏岩手連峰登山口 12:35 - 諸檜岳 13:29 - 大深山荘 15:18 - 三ツ石山 17:40 - 三ツ石山荘 18:12

7月28日(日) 天候：曇り後晴れ

朝4:00に起床すると、東の空は青空であった。前日のタイムから時間的には余裕がありそうなので、のんびりと朝食を摂り、5:30小屋を後にした。早朝の青空ではなく、少し雲が出てきたが雨の心配はなさそうである。まずは、大松倉山を越え、網張温泉分岐を目指す。朝露に濡れた笹藪を抜けてゆくため、足元が濡れる。標高差はあまりないので、涼しい樹林帯を軽快に歩く。大松倉山から一度下ると登山道脇の草が刈られており、歩きやすくなる。相変わらず曇り空で岩手山の姿は見えないが、順調に網張温泉への分岐へ到着する。ここから、黒倉山へは少し急な登りとなる。そして、火山活動が活発な地帯となる為、山頂付近は草木はなくなり、赤茶けた土の地帯が広がる。

黒倉山からは大地獄分岐からお花畑を經由して不動平避難小屋を目指す。黒倉山が火山地帯であり草木が少なかったが、大地獄分岐からは沢沿いのルートとなり、次第に草木も増えてくる。そして、お花畑に登着する。お花畑は湿原となっており、たくさんの高山植物が花を咲かせているが、その南側には鬼ヶ島のような断崖絶壁の鬼が城が見える。ここから、鬼が城の稜線方向へ進路し、不動平小屋へ300mほど登る。

しばらく登ると、登山道が北方向へ曲がり、長い下りとなる。お花畑からは100mほどしか登っていない。ここで、道間違いに気づく。どうやら、不動平避難小屋ではなく、平笠不動避難小屋へのルートへ入ってしまったようだ。山と高原地図では破線ルートであるが、登山道は明瞭であった。コースタイム的には30分以上長くなり、一部急登な箇所がある。また、予定ルートでは八合目小屋へ回れば水を汲めるが、平笠不動へのルートに水場はない。結局、時間や水の状況を考慮して、そのまま平笠不動へ向かうこととした。このころから、空は青空となり、時折、岩手山山頂が姿を見せる。暫く、岩手山の西側へ回りこむと、地図でも一目でわかる大きな岩が2つ目に入る。この岩を目指して急登を登れば間もなく平笠不動避難小屋に到着する。不動平避難小屋への到着予定と比較して、40分ほど遅れていた。

早々に昼食を摂り岩手山山頂を目指す。山頂への登山道は、火山らしくザレた登山道となり、風も強い。体が冷える前に一気に登頂。残念ながら、ガスが黒、お釜もよく見えない。体が冷えるので、早々に平笠不動避難小屋へ降りる。そのまま、焼走り登山口へ下山を開始する。暫くすると、富士山のような赤茶色の軽石のような登山道となり、足を足られるが膝への負担は少ないので、タイムを稼ぐ。第二噴火口跡からは再び樹林帯の登山道となり、溶岩の流れた跡に沿うように下ると、14:02焼走り登山口に到着する。素晴らしい青空の下、溶岩流跡とともにそびえる岩手山は、まさに岩手富士のごとく堂々とした山容であった。

焼走り登山口には、岩手山焼走り国際交流村があり、その中の焼走りの湯は露天風呂を備えた日帰り温泉である。汗を流し、喉を潤してから帰路についた。



(記：大山)

CT: 三ツ石山荘 5:35 - 網張分岐 6:50 - 姥倉山分岐 7:50 - 御苗代湖 9:04 - 平笠不動避難小屋 10:38/11:00 - 岩手山 11:37 - 平笠不動避難小屋 12:05/12:10 - 第二噴火口跡 13:03 - 焼走り登山口 14:02